

## IV. 総括 2020

### I. 生徒・保護者・教員の自己評価から

今年度は、生徒、保護者からの評価に関しては、全体的に例年より高い評価を得た。これは、このような状況の中でも、教員が一所懸命、生徒と接し、日頃、教育活動を行っている結果だと思う。オンライン授業の整備や校舎内の環境整備、消毒など多岐にわたる仕事量であったにもかかわらず、惜しみない努力と姿勢に感謝する。ただ、「② 国際教育」「⑭ 服装頭髪指導」「⑯ 礼儀」については例年より低い評価になった。新型コロナウイルスの影響で本校の教育活動を見ていただく機会や、保護者との面談機会がほとんどなかったため、保護者としては不安に感じてしまうことも多かったと思う。特に国際交流の分野では、英国語学留学やオーストラリアの姉妹校との交換留学のプログラムが中止になり、昨年度に比べて評価がかなり下がった。また、身なりの面では、生徒・保護者からの評価はあまりよくなかった。学校全体として自由な校風というイメージが悪い意味で、生徒・保護者に伝わっており、その点で教員の求める意識と、生徒・保護者の捉え方に差が生じている。そのような状況下で、生徒・保護者からももう少し厳しく指導して欲しいという意見が評価に現れた結果である。このことは、生徒募集にも大きくかわることであり、再度、カトリック学校としての規律、身なり、言動の指導を行っていく必要がある。

教員の自己評価から、全体の評価を見てみると「④ 教員研修」に関しては、今年度、学園研修、校外での研修が中止になり、評価が低くなっているが、次年度から再開する研究授業に向けて、後期からは、5教科、各教科で授業見学、課題の見直し、目標設定と指導方針の工夫を研究していく。さらに、来年度からは年間を通した研究授業を行っていく予定である。

学習面では、「⑪ 授業規律の徹底と質の高い学習」の項目で教員の評価が昨年度よりも4.0%減少している。今年度は、新型コロナウイルス対策で教員が一つになって、オンライン授業や課題配信に向けて、整備、研究をした。そのことを踏まえると、高い評価になると思うが、授業規律の面で評価が低くなったのか、オンラインでの授業研究に物足りなさを感じたかのいずれかが予想される。いずれにしても、前述したとおり、規律と教員のスキル向上にむけて改善を図る必要がある。また、「⑫ 課題学習の充実」の項目では、教員のA+Bの評価が80%であることに對して、生徒の評価は68.5%である。毎年この項目については評価に差が生じてしまう。逆に言えば、この差を埋めることが、生徒の学力、学習意識を飛躍的に上げるポイントとなる。生徒に関して言えば、全体の3分の1の生徒が課題や家庭学習が充実できていない。原因として考えられることは、教員が課題の重要性と学力向上へのつながりを意識させることができていない。あるいは、根底にある生徒のやる気の無さが挙げられる。特に中学生では、その傾向が顕著である。どのようにして、生徒をやる気にさせるかを研究する必要がある。目の前の試験の点数だけに注目し、宿題の重要性を語るよりも、学ぶことの重要性を説く必要がある。このことは、大人になっても変わらない大切な資質であり、中高生には、まだ、そのことを現実として捉えることができない分、我々教員が教え導く必要がある。

今年度から生徒の主体性を意識した様々な取り組みが始まった。大切なことは、それを導く教員の言動である。生徒にまかせっきりにするのではなく、良き相談者として教え導くことが大切である。

## II. 学校関係者による評価から

どの学校関係者評価委員からも、日頃の教育活動に対して、良い評価をいただいた。生徒・保護者の評価を通して見た場合、今年度は、例年に比べてB評価が少し多く、「国際教育の充実」と「保護者会活動の充実」の項目でB評価がついた。新型コロナウイルスの影響で、様々な活動が制限されていたことに理解を示していただいているものの、現状の課題が見え、今後の改善への期待が現れたものだと感じた。対面授業とオンライン授業の共存に向けた整備や国際交流など実際現地に行けなくてもオンラインでの交流などの工夫や、懇談会に代わる、教員と保護者との意見交換の場を設ける等、この状況だからこそできる新たな取り組みを考え実践する必要がある。

教員の自己評価を通してみる学校関係者評価委員からの評価は、昨年度よりA評価が少し増えたが、平均するとこれまでと変わらない評価となった。「中核目標の達成状況」については、教員の評価が低いこともあり、本校活動が伝わらなかったことと、教員評価と生徒評価に差が出た、「家庭学習の充実」の項目で改善を感じる事が原因でB評価にとどまったと予想される。また、「教員の校務分掌の目標や具体的内容の達成状況」ではA評価となったが、オンラインを活用したさらなる教育内容の拡大充実に期待を寄せているというコメントを複数いただいた。

各委員のコメントからは、オンラインを利用した教育活動の整備とそれを使いこなす教師のスキル向上や、カトリック学校としての人間教育など学校の特徴をどのようにアピールしていくかが今後の課題として挙がり、その点に多くの意見をいただいた。毎年、お忙しい中、本校の教育活動を客観的に判断し、アドバイスを下さる学校関係者評価委員の皆様には心より感謝する。

## III. 今後の取り組み

今年度も多くのご意見をいただき、その中で厳しいご意見もあった。このような状況下だからこそできる工夫をもっと考え実践していく必要を痛感した。私立学校として、建学の精神、校風などの具現化を目指し、時代とともに臨機応変に変化できるのも私立学校の強みだと感じる。今年度から、教員も意識的に学校改善に乗り出した。① 生徒の自ら学ぶ姿勢を育成 ② 教員のスキル向上のための研究授業 ③ オンライン授業の研究と整備 ④ 生徒の清潔感ある身なり指導を掲げている。学ぶ姿勢の育成には、家庭学習の在り方の改善と学校行事を見直し、生徒主体型の行事運営を行っている。今年度始めたばかりで、まだまだ目に見える成果は出てはいないが、継続指導していく中で、改善を繰り返し、良いものを作りあげていきたい。

新型コロナウイルスの影響で、広報活動や交流会などが実施できず、悩まされる年であったが、かえっていろいろなアイデアが出てきたように感じる。この状況が落ち着いても、有益な取り組みも多くあると感じているので、これまでの取り組みを根本から見直し、新しい時代に向けた活動にしていきたい。そのためには、教員一人ひとりのマンパワーが重要であり、教育授業体としての組織の中で如何に個々の個性を発揮し教育に変えていけるか、学校評価などを通して、自分自身と真摯に向き合い成長することが大切である。そこに、私立学校としての本校の魅力が生まれ、発展につながると感じる。